職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
東放学園映画専門学校		昭和59年4月2日		松島 司		〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-25-8 (電話) 03-5333-5080																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人東放学園		昭和54年4月1日		斉藤 晃		〒168-0063 東京都杉並区泉2-4-1 (電話) 03-3378-7538																							
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																							
文化・教養	芸術専門課程	映画制作科			平成6年文部科学省告示第84号	-																							
学科の目的	映画業界へ進む強い意志と時代に応じたスキルを備えた次世代を担う現場スタッフを育成することを目的とする。																												
認定年月日	令和3年3月25日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2年	昼間	1700時間	390時間	1,060時間	740時間	0時間	0時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
144人	165人	34人		7人	8人	15人																							
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A:100-85 B:84-70 C:69-60 D:59-50 F:49以下不合格 出席状況と試験、レポート提出、平常点等で評価																								
長期休み	■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月21日～翌1月6日 ■春季:3月16日～3月31日			卒業・進級条件	①期日までの学費納入 ②必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 相談内容に応じて、クラス担任、進路担当、専任カウンセラー等が対応。出席不良の学生には、クラス担任が電話やメールで状況を確認し、連絡がつかない場合は、保護者に報告。教職員全員で情報を共有し、組織的に対応している。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 部・クラブ活動、運動会、スポーツ大会、学園祭、ボランティア活動																								
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) ㈱円谷プロダクション、㈱ビデオソニック、㈱プル、㈱クリーク・アンド・リバー社、㈱東急エージェンシープロミックス、㈱PANS FILM、ヌーベルアージュ、㈱KEYAKI WORKS 他 (順不同)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等																								
	■就職指導内容 学科科目として「進路対策講座」を開講し、新卒者の就職活動からフリーランス活動におけるノウハウを指導しつつ、ビジネスマナー、就職筆記試験対策も取り入れ、就社希望者には就職セミナー、校内企業説明会を実施し、フリーランス希望者には卒業生の紹介などで対応している。1,2年それぞれの学年でインターンシップ制度も実施している。卒業学年には年3回の進路アンケートを実施し、進路担当者が個別でも対応している。※年金講座、租税教室(特にフリーランス希望者には確定申告の仕方)など社会人になる上で生活上に必要な知識を得るための講座も実施している				(令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)																								
	■卒業者数 66人 ■就職希望者数 35人 ■就職者数 26人 ■就職率 74% ■卒業者に占める就職者の割合 : 39%				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報処理検定(表計算)</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>日本語ワープロ検定</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>秘書検定</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>映像音響処理技術者資格認定試験</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	情報処理検定(表計算)	③	10人	8人	日本語ワープロ検定	③	7人	4人	秘書検定	③	5人	2人	映像音響処理技術者資格認定試験	③	13人	9人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																								
情報処理検定(表計算)	③	10人	8人																										
日本語ワープロ検定	③	7人	4人																										
秘書検定	③	5人	2人																										
映像音響処理技術者資格認定試験	③	13人	9人																										
■その他 ・進学者数: 5人 ・映画業界は、フリーランスで活動される方が多く、学生の志望に合わせた進路指導で対応している。(フリーランス就業者:15名) ※上記の数値は就社者数のみであり、フリーランスでの就業した者や進学者を加算すると46名となり、卒業者に占める就職者の割合も69.7%となる。			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 ・2015卒業制作作品「溶ける」第70回カンヌ国際映画祭 シネファンダシオン2017 正式招待、他国内5賞受賞 ・2016卒業制作作品「チョンティチャ」第29回東京学生映画祭グランプリ受賞 ・2017卒業制作作品「幸福な。」第4回ロンドンアジア映画祭2018 招待上映、第5回なら国際映画祭2018NARA-wave入選他入選実績あり ・2017卒業制作作品「すばらしき世界」第40回びあフィルムフェスティバル PFFアワード2018 審査員特別賞、映画ファン賞(びあベスト賞)受賞等 ・2019年度卒業制作「タスキ計画」第42回びあフィルムフェスティバル PFFアワード2020ノミネート ・2020年度卒業制作「むすんでひらいて」第32回東京学生映画祭 ノミネート、真夏のミライ映画フェス2022 エンゲージメント率1位 ・2020年度卒業制作「やくそく」Florence Film Awards-J-November 2020-グランプリ&ベスト学生映画(イタリア)他受賞 ・2021年度卒業制作「MY HOMETOWN」第14回下北沢映画祭 実写部門グランプリ、第27回あいち国際女性映画祭2022 グランプリ、第32回ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2022 ゆうばりホープ、第23回TAMA NEW WAVE 入選、第11回関西学生映画祭 審査員賞授業、東京イン																										
(令和 3年度卒業生に関する 令和4年5月1日 時点の情報)																													

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 22名 ■中退率 13%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者169名（令和3年4月1日入学者を含む） 令和4年3月31日時点において、在学者147名（令和4年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、経済的問題、健康上の理由等</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担当アドバイザー（担任）が学生の欠席および成績状況を把握し、必要に応じて指導ならびに助言を行い、保護者との情報共有を図っている。また個人面談を通じて学校生活全般に対するケアを行っている。専任カウンセラーによるカウンセリングを実施している。</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入</p> <p>[入学前] 【東放学園特待奨学生制度】将来性ある優れた能力を有する者に学費を免除（全額免除～一部免除） 【東放学園卒業生子女奨学金制度】本学園卒業生の子女が入学する場合に入学金の半額を免除（出願時に要申請書） 【東放学園卒業生・在校生 兄弟姉妹奨学金制度】本学園卒業生または在校生の兄弟姉妹が入学する場合に入学金半額免除（出願時に要申請書）</p> <p>[入学後] 【東放学園奨学金制度】経済的な修学困難者に対し、2年次後期授業料を免除する制度 【東放学園特別育英奨学生制度】本学園の教育方針を理解し勉学に励んだ者で年間の成績が特に優秀であり、かつ人物的にも優れている者を選抜し後期授業料相当額を給付する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>https://www.tohogakuen.ac.jp/movie/digital/</p>

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や威力の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、教務教育部長その他、学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。学外委員からは専門分野に関わる人材の育成に有用なご意見や改善点、新たな施策を提示して頂き、当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的な要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会にてフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

名 前	令和5年度		種別
	所 属	任期	
中須 岳士	日本映画・テレビ照明協会 副会長/技術部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
藤田 真一	株式会社アーティット 代表取締役/映画監督	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
蒲田 直樹	東放学園映画専門学校 教務教育部長		
坂口 俊	東放学園映画専門学校 映画制作科 学科主任		
増田 正明	東放学園映画専門学校 映画制作科 学科担当		
鈴木 壮一	東放学園映画専門学校 映画制作科 学科担当		
栗原 大輔	東放学園映画専門学校 映画制作科 学科担当		
青柳 高広	東放学園映画専門学校 学務管理部部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年12月10日 15:30～17:30(オンラインにて開催)

第2回 令和5年3月上旬 ※新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、文書による回答等で開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

各委員からの提案内容や委員会での決定内容等に関しては、各学科の担当職員を中心に構成されるカリキュラム会議等において、次年度以降の教育課程の編成や、当該年度の授業内容に具体的に反映させている。

【本学科への意見・改善案等(抜粋)】

意見等:映画制作全工程を学ぶカリキュラムは非常に良いと思う。好きから始まり、職種を知り、自身で選ぶという流れは非常に良いと思うので、在校生に可能な限り多くの職種を知る機会を提供してはどうか。また、進路を考える授業においても、本校の強みでもある卒業生を様々な職種で多く紹介し、学生の職種理解を深めてたり、インターンシップの活用でより充実した職種選びができるのでは？

改善点:業界の職種理解は、今後も課題となるため、担当教員間でもミーティングを重ね検討していく。インターンシップを授業科目化するには時期を含めた設定条件が必要となるため、今後どのように取り組むかを検討していく。

意見等:実習授業においてはアクティブラーニング型が学生たちを飽きさせないテクニックだと思う。先生が一方的にやって見せる授業、話す授業にならないよう工夫が必要。

改善点:専門学校であるため、極力実習、演習系授業を広く展開し、学生たちに学ばせたいこともあるので、次年度は段階を踏んだ実習系授業を多く取り入れてみる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ① 業界の多様化に併せる事を目的とした映像技術全方位的な教育、技術革新と多様化が進む現場に対応する教育等を重点項目としている
本学科において、これらの目的を達成するため、映画・テレビ・インターネット、撮影や編集等と分野を限定せず、広範囲に渡り業務を担当している企業、学生の就業先となり得る連携すべき企業を選択する事。
 - ② 「現場が必要とする人材」を最も効果的に育む事ができる、現場の一線で活躍している企業や外部講師から助言をいただき、それを積極的に反映させていく事。
 - ③ 実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、学内の学科担当職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。
- 以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科1年次では、撮影や編集、映像信号・画質管理等の放送・映像技術に関わる各分野において、将来の高度な実践力を身につけるための実習・演習授業を実施している。各分野の職種や業務に従事している企業と連携し授業を担当いただき、学生の理解度に応じたトレーニングを施しながら、指導内容の習熟度や関連知識の理解度等を勘案しながら学修成果の評価を実施していただいている。

2年次では、隣接する他職種の知識や技術を理解しながら、さらに実践力を高めるために、作品制作系の総合的な実習・演習を実施。各分野の一戦で活躍している企業と連携し授業を担当いただき、学修成果の評価を実施していただいている。

また、連携企業や外部講師を招聘し、学科担当職員全員・就職担当職員との懇談の場である講師会を実施。連携企業や講師との意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習・演習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と教育内容・学校職員の質向上に努めている。

上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定常的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
シナリオ基礎	映像作品には不可欠なシナリオの位置づけと役割を学ぶ。 シナリオ独特の書き方を理解すると共に基礎を身につける。	株式会社ダブルフォックス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「GEAR EXPO TOKYO 2023 ～映画撮影術と最新機材展示～」(主催: 日本映画撮影監督協会・日本映画テレビ照明協会)

講師: 大西盛士、御木茂則、宗賢次郎、中須岳士 氏

会場: 東映東京撮影所6st

期間: 令和5年1月20日(金) / 対象: 映画制作科 技術系専任教員

内容:

10:30～12:00 DMXセミナー 大西盛士(トクシュ/JSL)

近年撮影にも急速に普及したDMXの基本的概念と設定方法とGrandMAやiPadsアプリなどのコントロール方法

13:30～14:00 露出計セミナー 御木茂則(JSC) デジタル時代の露出の実際と、画の中の光量の例を挙げて説明

14:00～15:30 ライティングワークショップ プレゼンター: 宗賢次郎(JSL) 照明: 中須岳士(JSL) 撮影: 野口健司(JSC)

実際に最新の機材を用い、照明を作ってみるワークショップ。

セットの窓外の風景はLEDパネルを用い、大型LED機材とパネルの光量のバランスを取りながら、

複数シーンの照明を作ってみる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「わかりやすい説明の仕方」(主催: 株式会社インソース)

期間: 令和4年2月20日(月) / 対象: 映画制作科専任教員

内容:

1. 「伝える」ポイントを考える(過去に見聞きした説明を振り返る、など)

2. 目的・意図を明確にする(伝えたい内容を整理する、相手の立場になって考える)

3. 話の構造を考える(何が話をわかりにくくしているのか、構造化のパターン、階層化するメリット、など)

4. 話の展開を考える(わかりやすい説明をするためには、話の展開例)

5. 実際の話し方をトレーニングする(間の取り方、話すスピード、姿勢態度表情の作り方、など)

6. 総合演習①(指定された文章を階層的に整理し、最も伝えたい内容に絞って、分かりやすく説明する)

7. 総合演習②(3つのテーマから1つを選択し、自分で文章を考え、分かりやすく説明する)

(また、グループ内でお互いの説明の仕方について、チェックシートを用いてフィードバックを行う)

8. まとめ(本日の研修を踏まえて、明日から意識することを考え、グループ内で共有する)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: InterBEE2023 (主催: 一般社団法人 電子情報技術産業協会)

講師: 該当イベント出展社

期間: 令和5年 11月 / 映画制作科専任教員

内容: 放送・映像・音響・照明機器の最新技術展。今後各業界で主流となる機材の視察と、性能の理解を目的。

今後の業界の動向や、授業にて使用する機材の選定(学生たちでも扱える)も兼ねる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「分かりやすい説明の仕方研修」(主催: 株式会社インソース)

期間: 令和5年2～3月実施予定 / 対象: 東放学園全教職員

内容: 学生指導、保護者対応、関連企業団体等とのコミュニケーションを図る上で最も重要とされることでもあり、

説明の仕方は、担当授業においても十分活かせるものである。

教職員としてのスキルアップのための研修としている。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

(法人の基本方針)

- ①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
- ②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
- ③各校・各部門は、情報公開を念頭に揚げ、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3) 教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会対応
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習、インターンシップ等、防火・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

【学科共通】

本委員会での結果を活用し、教育活動及び学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委員の意見やアドバイスを尊重し「即対応」「計画的対応」などを検討し、可能な限り改善を行っている。(カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップ等)特に、時代に合わせた社会人向け教育や、卒業生の早期退職者フォローにも活かせる内容を試みている。

[意見] 業界関連団体は多いが、もう少し深く関わることができないか。

[改善策] 主体的に地域や社会に学校をPRして行くことが必要である。関連団体との関係性は現時点では向こうから要請されたものに答えるだけである。今後はより間接部門のキャリアサポートセンターと協働して主体的に働きかけていきたい。

[意見] チームで作品づくりに携わる中で、他者と協調しつつ自分の意見を出せるような人材育成を目指してほしい。

[改善策] クリエイター育成と基本的な協調性等の人材・人間力育成は両輪で行う必要がある為、今後は教職員全体で検討して行く。

[意見] 理想の教員・職員のラインナップを考えて、少しでもそれを揃えられるような人事をして頂きたい。

[改善策] 近年、特に非常勤講師の多くが講師定年を迎えることもあり、過渡期に差し掛かっている現状である。その為今後は各学科で大幅なカリキュラムの見直しを検討している。またこれと同時に企業・団体との繋がりを組織的に強化して行こうと考えている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
月野木 隆行	学校法人東放学園 元理事 学校法人東放学園 東放学園専門学校 元校長 学校法人東放学園 東放学園映画専門学校 元校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	教育・学校運営に関する有識者
浅井 千瑞	株式会社 メディアミックス・ジャパン 制作演出部 部長 プロデューサー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業界関係者
加藤 亮一	株式会社 studio K	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業界関係者
竹内 一仁	東京都立小岩高等学校 1学年主任 主幹教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教諭
芦塚 明子	2004年 デジタル映画科 卒業生 株式会社 スクーターフィルムズ 取締役COO プロデューサー	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生(企業等委員)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL <https://www.tohogakuen.ac.jp>

公表時期: 令和5年3月2日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
(2) 各学科等の教育	募集学科、募集定員、出願資格、学科紹介、学びのポイント、おもなカリキュラム、資格取得
(3) 教職員	学園概要(校長名、教員数)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職・デビュー支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	部&クラブ活動紹介、機材・設備
(6) 学生の生活支援	学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン
(8) 学校の財務	情報公開(財務情報)
(9) 学校評価	情報公開(自己評価報告書、学校関係者評価報告書)
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL <https://www.tohogakuen.ac.jp>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 映画制作科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			撮影基礎	映画の技術的な考え方の基礎を学ぶ。一年次の作品制作に必要な機材の基本的な取り扱い方を習得する。	1前		60			○	○		○		
2	○			映画基礎演習	脚本、演出、制作、撮影、照明、録音、編集など各パートの職域を理解すると共に、映画制作全体の流れを理解する。	1前		60		○		○		○		
3	○			シナリオ基礎	映像作品に必要な不可欠なシナリオの位置付けと役割の基礎を学ぶ。シナリオという独特の形式を学び、基本的な書き方をマスターする。	1前		30		○		○			○	○
4	○			ドラマ制作	映画作りのプロセスを徹底して実践的に学ぶ。企画から撮影、編集、整音など映画制作全ての役割りについてプロのやり方を学ぶ。	1後		180		○		○	○		○	
5			○	編集基礎	編集の基本操作から合成の基礎、カラーグレーディングの基礎等を学ぶ。プロが使用しているソフトウェアを使用して、映像編集の作業全般を理解し技術を習得する。	1前		30			○	○		○		
6			○	シナリオ演習Ⅰ	シナリオ三幕式構成法を理解し、オリジナルシナリオを描き上げる為の実作指導を行う。	1後		30		○		○		○		
7			○	Photoshop・Illustrator	Adobe「Photoshop」「Illustrator」の基本的な操作方法を学ぶ。デジタル画像処理の基礎を習得し、作品の表現方法の幅を広げる。	1後		30			○	○		○		
8			○	撮影テクニック	デジタル4Kカメラや16mmフィルムカメラを使用し、映画撮影における基本技術を習得すると共に、自由な発想を軸とした映像表現を学ぶ。	1後		75			○	○			○	
9			○	演技演出実習	演出の基礎を学んだ上で演じる側と演出する側の両方を体験することによって、演出とは何か、演じるとは何かということを考えていく。	1後		30		○		○		○		
10			○	ゼミナールⅠ	作品制作の流れを理解し、スタッフの役割を知る。自主性と自由な表現を尊重した作品制作を繰り返す行う。	1前		30		○		○	○	○		
11	○			演出基礎	映画作りの基礎を学ぶ。様々な作品をモチーフに、演出や撮影の技法、効果などを分析し、意見交換を行う。	1前		60	○			○			○	
12	○			作品鑑賞Ⅰ	映画制作を志す者として、最低限観ておくべき映画等を鑑賞して、それについてのレポートを書くという行為を繰り返すことにより、映画を作る為の感性を磨く。	1前		60	○			○		○		

13		○	作品鑑賞Ⅱ	映画制作を志す者として、最低限観ておくべき映画等を鑑賞して、それについてのレポートを書くという行為を繰り返すことにより、映画を作る為の感性を磨く。	1後	60	○			○		○							
14	○		サウンドデザイン	なぜ映像作品に効果音が必要になるのかということを理解し、音による映像演出を学ぶ。	1後	30	○			○		○							
15		○	映画表現史Ⅰ	映画の歴史について「表現史」という観点から考察する。Ⅰでは映画前史からトーキー前後までの40年間をクロノロジカルに考察する。	1後	45	○			○				○					
16		○	演出・編集のココロ	監督の視点から演出・編集を考える。監督(ディレクション)という作業の根幹に立ち戻り、それを作品に反映させるということ意識化することを学ぶ。	1後	30	○			○								○	
17		○	特別講座Ⅰ	映画制作の各分野で活躍しているプロを迎えて講義を行う。	1前	30	○			○								○	
18		○	進路対策講座Ⅰ	就職活動の準備として業界研究から面接対策、保険や年金についてなどを幅広く学ぶ。社会の仕組みを知り、社会人としての基本的なマナーを身につける。	1通	30	○			○									○
19		○	卒業制作グループ制作	2年間の授業の集大成としてゼミ形式でおこなう演習。15名程度のグループに分かれて、20～30分程度の映画を制作する。	2通	200		○			○	○							○
20		○	卒業制作グループ制作 ※監督/仕上げ担当。特別追加分	卒業制作グループ制作において監督や、編集、録音等のポストプロダクション作業を行う。	2後	60		○			○	○							○
21		○	個人制作	講師指導の基プロット、シナリオを作成し、10分～15分程度の映像作品を制作する。	2前	120		○			○	○							○
22		○	シナリオ実作	2年間の授業の集大成として映像作品のシナリオを執筆する。分量は400字詰め原稿用紙120枚程度とし、優秀作品は「卒制シナリオ集」に掲載する。	2通	180		○			○								○
23		○	映画スタッフゼミ 撮影実習	1年次の「撮影テクニック」での基礎的技術を踏まえ、4Kカメラ「Sony FS7」やフィルムカメラを用いて、映画撮影における実践的な技術の習得を目指す。	2前	90				○	○								○
24		○	映画スタッフゼミ 照明実習	ライティングの意味を知り、的確な表現に結び付けるために、機材を駆使して実践的応用テクニックを身につける。	2前	60				○	○								○
25		○	映画スタッフゼミ 録音実習	マイクの種類や特性、録音の技法等、新しい録音・音響の知識を深める。映画という高いクオリティの中での表現方法を理解すると共に、実践できるようになることを目的とする。	2前	60				○	○								○
26		○	映画スタッフゼミ 編集実習	現在オフライン編集機としていちばん使われているAvid Media Composerの基本的な操作を習得すると共に、映像表現の基本的な考え方を学ぶ。	2前	60				○	○								○
27		○	映画スタッフゼミ シナリオ演習Ⅱ	シナリオを書く際の考え方やストーリーの作り方、構成などを学んでいく。オリジナルのシナリオを書き上げることを目的とする。	2前	60				○	○								○

28		○	映画制作実習Ⅰ	作品を作る基礎となる企画の考え方を学ぶ。撮影の実習を交え、イメージをいかに映像化していくか、「映画の中のリアル」を制作することを学ぶ。	2前	60	○	○	○									
29		○	映画制作実習Ⅱ	個々のイメージを「映像化」すべく、ショートストーリーを考え、撮影し、完成を目指す。	2後	60	○	○	○									
30		○	特撮・VFX実習	グリーンバック撮影等、特殊撮影の技法や、4Kカメラの仕組みを学ぶ。限りなく自由な発想で「特撮」の現場作業について学んでいく。	2後	60		○	○									
31		○	ショートフィルム制作	所定の台本を実際に映像化するまでを体験する。キャスティング、小道具・衣装、ロケ地選定、スケジュールリング、そして演出プランの作成から現場での撮影までを、各部署に分かれて実践的に学んでいく。	2前	80	○	○	○									
32		○	After Effects (短期集中)	Adobe社の「After Effects」を使用し、モーショングラフィックスとビジュアルエフェクトの基礎を学ぶ。多彩なビジュアルエフェクトを理解すると共に、映像合成のテクニックを習得する。	2短	30		○	○									
33		○	3DCG	3DCGソフト「maya」を使用し、簡単なCGを作成する。3DCGの基礎を理解すると共に、VFXの一要素としての3DCGの役割を理解する。	2後	30		○	○									
34		○	Pro Tools (短期集中)	録音・編集・ミキシング等の音声に関わるすべての機能を備えた総合システムPro Tools。今や殆どのスタジオに導入されているProToolsの基本知識、基本操作を習得する。	2短	30		○	○									
35		○	ゼミナールⅡ	作品制作の流れを理解し、スタッフの役割を知る。自主性と自由な表現を尊重した作品制作を繰り返す行う。	2前	30	○		○	○	○							
36		○	ゼミナールⅢ	シナリオとは何かという基本から、発想法やテーマの選び方等、シナリオテクニックの応用を学び習得する。	2後	60	○		○									
37		○	映画表現史Ⅱ	1940年以降の映画の歴史から、特徴的な映画のムーブメントを取り上げ、表現の多様性を追求する。	2前	45	○		○									
38		○	映画理論	映画理論から映画表現の特性を理解し、関連した思想を理解する。また、内外の優れた映画作家たちの作品や演出を考察する。	2後	30	○		○									
39		○	特別講座Ⅱ	映画制作の各分野で活躍しているプロを迎えて講義を行う。	2前	30	○		○									
40		○	進路対策講座Ⅱ	就職活動における各種準備を指導していく。履歴書やエントリーシートの書き方、ポートフォリオ講座等の基礎的なことから、ビジネスマナー等、社会人としての常識を身につけ進路決定を目指す。	2前	30	○		○									
41		○	進路対策講座Ⅲ	卒業後の進路決定に向け、業界関連企業の説明会と個人面談をベースとして進める。進路相談なども行い、それぞれの志望に合った進路を一緒に考えていく。	2後	15	○		○									
合計					41	科目	単位時間(1,840 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【卒業要件】 ①期日までの学費納入 ②必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定	1学年の学期区分	2期
【履修方法】 初回の授業（ガイダンス）で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。